

製品名: Ron (リン酸化 Ser1394) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05379**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300
分子量	152kDa

抗原情報

遺伝子名	MST1R
別名	MST1R; PTK8; RON; Macrophage-stimulating protein receptor; MSP receptor; CDw136; Protein-tyrosine kinase 8; p185-Ron; CD antigen CD136
遺伝子 ID	4486.0
SwissProt ID	Q04912
免疫原	抗血清は、ヒト CD136/RON 由来の Ser1394 のリン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1351-1400

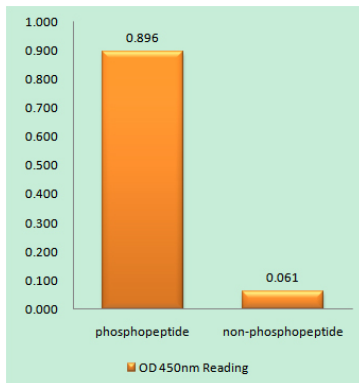
背景

この遺伝子は、チロシンキナーゼ活性を持つマクロファージ刺激タンパク質 (MSP) の細胞表面受容体をコードしています。このタンパク質の成熟型は、ジスルフィド結合した α サブユニットと β サブユニットのヘテロ二量体であり、一本鎖前駆体のタンパク質分解による切断によって生成されます。 β サブユニットは MSP の刺激によりチロシンリン酸化を受けます。このタンパク質は肺の粘液纖毛輸送体の纖毛上皮に発現し、MSP とともに宿主防御に関与していると考えられています。選択的スプライシングによって、同様のタンパク質分解処理を受ける可能性のある異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2016年1月],触媒活性: ATP + a [タンパク質]-L-チロシン = ADP + a [タンパク質]-L-チロシンリン酸。機能: マクロファージ刺激タンパク質 (MSP) の受容体。チロシンタンパク質キナーゼ活性を有する。PTM: リガンド結合に応じてリン酸化される。PTM: タンパク質分解により2つのサブユニットが生成される。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。Tyr タンパク質キナーゼファミリー。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。類似性: 1つの Sema ドメインを含む。類似性: 3つの IPT/TIG ドメインを含む。サブユニット: ジスルフィド結合した α 鎖と β 鎖からなるヘテロ二量体。PLXNB1 に結合し、HYAL2 と関連し、負に制御される。組織特異性: ケラチノサイトおよび肺。

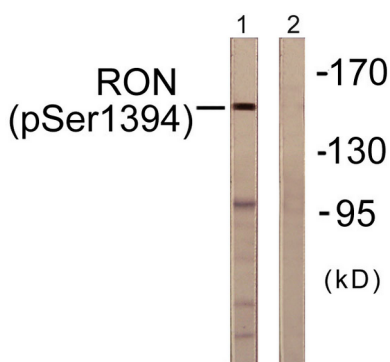
研究分野

細胞生物学

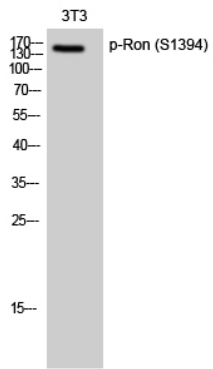
画像データ



CD136/RON (リン酸化 Ser1394) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



TNF- α 20 ng/ml 2' で処理した HeLa 細胞ライセートの CD136/RON (リン酸化 Ser1394) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでプロッキングされている。



3T3 細胞のウェスタンブロット解析 (Phospho-Ron (S1394) ポリクローナル抗体を 1: 500 に希釈したもの)